

新春スペシャル

あなたの今年の抱負は？



「真心」を大切に

新年明けましておめでとうございます。市民のみなさんにおかれましては、平成23年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は就任以来、「元気で住みよい竹原市」づくりのために、様々な施策に取り組んでいるところですが、その中で市民のみなさんの心の温かさにふれ、まちづくりを支えているのは、人々の「真心」であると感じています。

市では、市民のみなさんが「住んでよかった」と実感できる市民満足度の高いまちの実現に向けて、市民と行政のパートナーシップによる「協働のまちづくり」を推進しています。

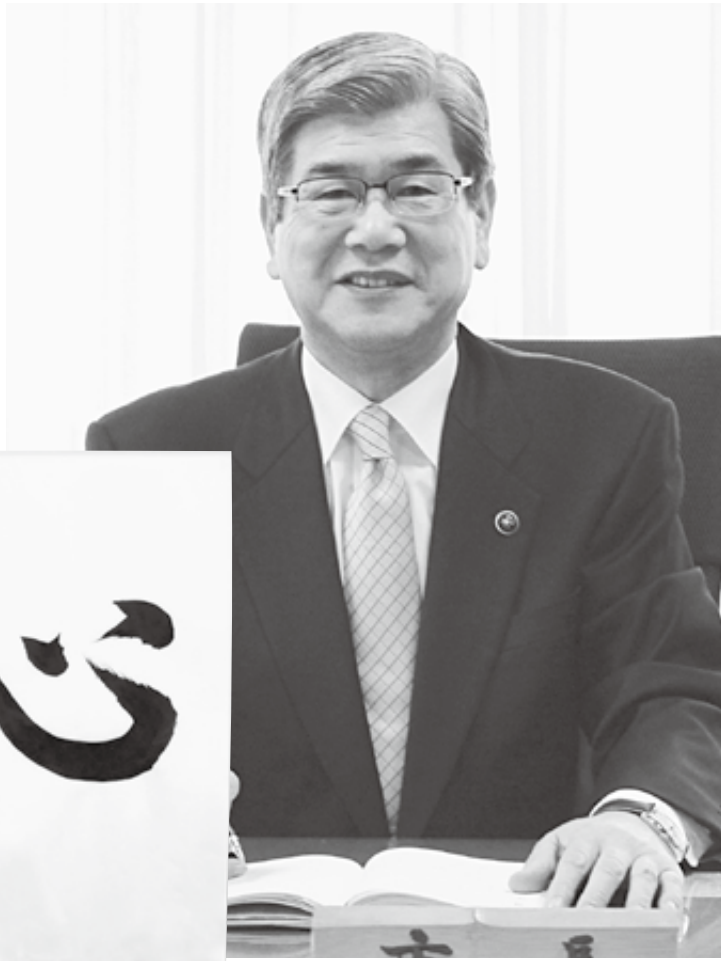
協働のまちづくりで大切なのは、「心と心」のつながりです。共通の目的に向かうためには、顔をつき合わせて、真心をもって信頼関係を築くことが必要です。そして、お互いを知ることが地域に「安心」を生む

のではないでしょうか。

また、行政も真心をもって市民のみなさんに接し、信頼される市役所でありたいと思っています。みなさんに理解していただき、一緒にまちづくりを進めていくためには、対話をし、心を通わせ合うことが必要です。「竹原を良くしよう」と心をつなぐことが大切だと考えます。

竹原市には、瀬戸内海をはじめとする美しい自然やすばらしい歴史・文化などがあり、誇れる資源がたくさんあります。最近では、「道の駅たけはら」や竹原を舞台としたアニメをきっかけとして、多くの観光客が訪れています。みなさんの厚い人情と深い郷土愛は、訪れる方々へのおもてなしの心になります。

人心は宝です。今年は特に「真心」を大切にして、市民と行政がお互いに理解を深め、市民のみなさんと共に住みよさを実感できるまちづくりを進めていきたいと考えています。



市長 小坂政司

心



飛躍が起きる年にしたい

新年明けましておめでとうございます。市民のみなさんにおかれましては、ご健勝にて新春を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。今年の抱負は、「躍」「飛躍」「躍進」「躍動」「活躍」などを意味する一字です。今年は、私自身も躍動し、そして市民のみなさんにも躍動していただく一年にしたいと思っています。

まちづくりの主人公は、市民のみなさんです。それぞれが持てる力を集めることで、相乗効果が起こり、飛躍することができると考えています。

現在、竹原市には、昨年10月にオープンした「道の駅たけはら」や、今年4月にサービス開始予定の「ケーブルテレビ放送」など、情報発信に利用できる手段があります。

例えば、こういったものを生かして、市民のみなさんが力を合わせて

情報発信することで、竹原市を元気にしていくことができるのではないかと考えます。また、市外から人を呼び込むことが、市の活性化にもつながり、さらには、みなさん自身が竹原市のよさを感じるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

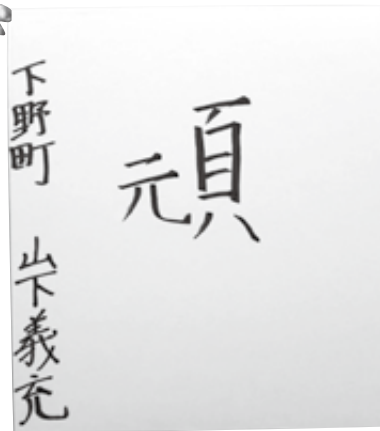
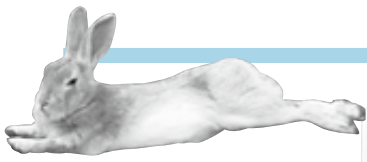
そして、今年は広域的にも飛躍する年にしたいと思っています。竹原市は、瀬戸内のご真ん中にあります。地の利を生かして、周辺地域とも連携することで、これまで積み重ねてきた成果を発揮するとともに、新たな取り組みにチャレンジすることもできます。竹原市が核となって、瀬戸内全体を活性化させるという気持ちが必要です。

まちづくりで大切なのは、「人」です。発展の芽を生み出すのは、みなさんです。市民のみなさんが自ら学び、主体的に活躍できる環境を整え、市民が主役のまちづくりを進めたいと考えています。

新年、明けましておめでとうございます。

目の出と共に迎えた新たな年。新年号の今回は、市長、議長、そして、うさぎ年生まれの人たちに、「今年の抱負」を漢字一文字で表現していただきました。みなさん、新たな決意を抱いています。あなたは、今年一年をどのような年にしたいですか？





35歳/昭和50年7月14日生まれ

山下義充さんは、平成21年度から、中通少年野球団の監督としてチームを率いています。竹原で生まれ育ち、自身も野球少年だった山下さん。監督として2年目を迎える今年の抱負を語ってくれました。

チームとして頑張りたい

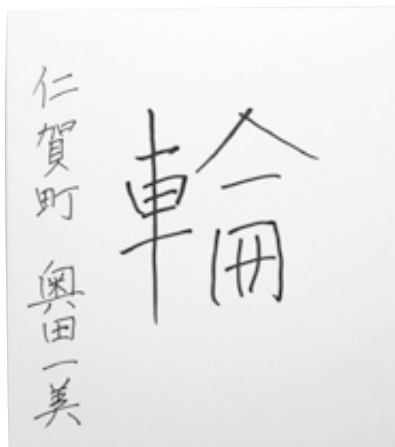
今年の抱負は「頑」。「仕事、子育て、そして少年野球を頑張りたい」という思いを込めました。昨年は、初めて少年野球の監督を任されたこともあり、戸惑うこともいろいろありました。今年は昨年の経験を生かして、子どもたちへの指導方法なども模索しながら、子どもたちと一緒に、チームとして頑張りたいです。

中通少年野球団の子どもたちは、大きな声であいさつや声かけをすることが出来ます。野球に対する姿勢は竹原が一番だと誇れます。

子どもは、子ども同士で学び合います。これからも子どもの輪や自主性を大切にしながら、教えるべきことは、厳しく教えていきたいです。

そして、今年も、厳しく、楽しく、和気あいあいと練習を重ねて、一つでも多く勝てるように頑張ります。

うさぎ年に生まれたあなたの抱負は？



47歳/昭和38年2月19日生まれ

奥田一美さんは、5年前から女性消防団員として、活動しています。昨年12月、竹原市消防団第6分団の副分団長に任命された奥田さん。消防団員としての抱負を語ってくれました。

輪を大切に活動したい

今年「輪」を大切にしたいです。第6分団は、「大切な命・大切な家族を守ってほしい」をモットーに、地域に出て予防・防災活動に努めています。

活動を進めていく中で、特に団員間の情報共有が重要になります。「あそこの地域はこんな状況だった」「分かりやすい説明をするためにこうしよう」など、団員同士で意見交換をしながら、活動を改善していきます。

時には、みんなでわいわい楽しく息抜きをすることもあるんですよ。今年も団員の「輪」を大切にしながら、さらに市民の防災意識の「輪」も広げていけるよう、頑張りたいです。

そして、「輪」に新しい風を吹き込むために、若い女性消防団員が入りやすい雰囲気をつくっていくことも目標です。



11歳／平成11年6月9日生まれ

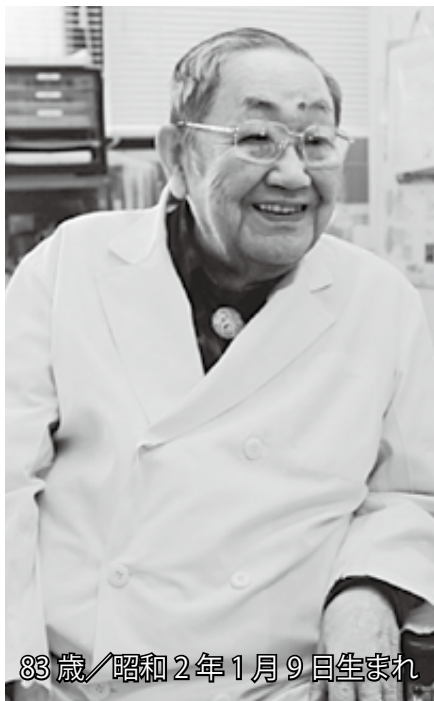
竹原小学校5年生の緒方まあやさんは、飼育委員としてうさぎの世話をしています。去年10月、家で飼っていたうさぎが天国へ行ってしまったという緒方さん。うさぎのノンから学んだことを作文してくれました。



今年の抱負は、感謝の「謝」です。私は、いつもお世話になっている人へ「感謝の気持ち」を持って接していきたいです。去年の10月、5歳の時から飼っていたうさぎのノンが天国へ行ってしまいました。一番後悔したことは、ノンにお別れの言葉を言えなかったことです。「今までありがとう」と、最後に伝えなかったです。これからは、後悔しないように周りの人についても「ありがとう」という気持ちを持って接したいです。学校では、飼育委員でうさぎのお世話をしています。体をなでたり、野菜をあげたり、ノンと同じようにかわいがっています。将来は獣医になって、看護師を目指す姉と病院を経営したいという夢もあります。今年はいよいよ最高学年です。ノンに教えてもらったことを忘れず、家族、友達、先生に毎日感謝の気持ちを持って接していきたいようがんばります。

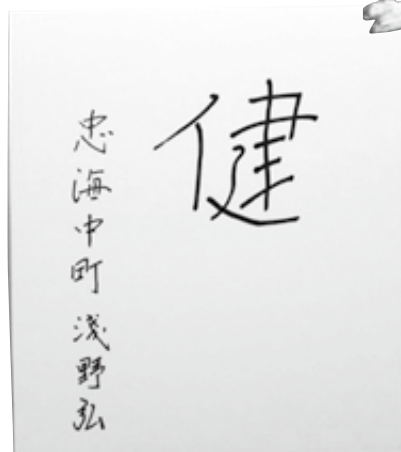
「ありがとう」の心を忘れずに

うさぎ年さん集まれ～！！



83歳／昭和2年1月9日生まれ

浅野弘さんは、50年以上医師として活躍しています。「大先生」の愛称で地域の人々に親しまれている浅野さん。現在、忠海中町の浅野内科医院の院長を務める息子さんのサポートをしています。



約50年前、忠海に医院を開業して以来、地域に住むみなさんと関わってきました。みなさん、本当にいい人なんですよ。私の願いは、みなさんがいついつまでも健やかでいることです。そのために、医師として、今年もみなさんの健やかさを守っていききたいと思っています。現在は、世代交代をして、息子のお手伝いというような形で仕事をしています。午前中に診療をして、午後は、本を読んで過ごしています。学校や幼稚園の校医・園医としての仕事がある時は、出かけることもあります。仕事は私の「習慣」になっています。仕事をしないと、何をしようかと悩んでしまうんですよ。生涯現役でいたいですね。

健やかな1年でありますように